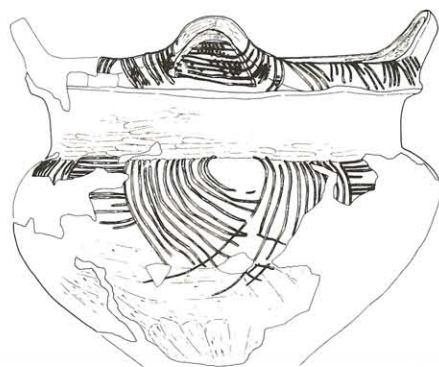

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

紀要

2004



2006年3月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



〔表紙〕 津島岡大遺跡第17次調査（環境理工学部棟）出土の深鉢
（縄文時代後期）

〔裏表紙〕 鹿田遺跡第14次調査（病棟）出土の木簡
（平安時代後半～末）

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2004

2006年3月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

2004（平成16）年度には、鹿田地区において医学部附属病院立体駐車場エレベーター設置にともなう発掘調査等をおこなうとともに、事務局本部棟および環境理工学部棟の新営にともなって実施した発掘調査の成果を報告書として刊行しました。

事務局本部棟の発掘調査は2001（平成13）年、環境理工学部棟のそれは1996（平成8）年と1999（平成11）年でしたから、ことに後者については成果の報告までかなりの年月を費やしたことになります。これらの調査のあと他の発掘調査の実施が重なって整理作業が遅延したわけですが、文化庁では発掘調査のあと速やかに報告書の刊行をおこなうよう指導しており、本学でも報告書の積み残し解消のために鋭意整理作業を進めているところです。

今後は鹿田遺跡関係の調査報告書の刊行が主な課題となります。鹿田遺跡に関係し、本年報では医学部附属病院管理棟の調査で検出した12～13世紀の井戸枠の再検討結果を報告しています。昨年秋に新病棟ロビーで開催した「岡山大学発掘成果展」のために井戸枠を準備していたところ、板材に焼き付けられた刻印を確認し、これをきっかけにしてこれらの井戸枠の板材どうしが接合し、元は筏穴をもった角材として持ち込まれたらしいことが判明しました。古代の長岡京の井戸などで知られた製材と木材の運搬・利用システムの新たな類例を付け加えることとなったわけですが、このことは藤原摂関家の荘園に関係するかと推定されている鹿田遺跡の歴史的な位置づけを考えるうえでも意義がありそうです。発掘調査成果の整理作業を進めるにあたっては、迅速さとともに遺跡・遺物の内容を学術的に深く的確に把握し、歴史の豊かな内容を報告できるよう努めていきたいと考えています。

本年報の津島岡大遺跡調査研究に関しては、発掘資料の自然科学分析に関するこれまでの成果を集成しています。自然科学データの蓄積は、環境問題に強い関心が寄せられている今日、人間の歴史を解き明かすうえでますます重要な意義をもつといえるでしょう。本センター調査研究専門員の諸先生に研究を進めていただいた成果も含まれています。外部に委託している放射性炭素年代測定については、データ数が増えるにつれて問題点も多くなる一面があり、今後とも注意が必要です。

2004（平成16）年度から岡山大学は国立大学法人となり、本センターも新たな体制で事業に取り組んでいます。調査、研究、普及等の事業を推進するにあたっては本学内外の機関・各位から多大のご協力とご支援をいただきました。最後になりましたが、厚く御礼申しあげます。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

センター長（理事・事務局長） 阿 部 健
副センター長（文化科学研究科教授） 稲 田 孝 司

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2004

目 次

第1章 津島岡大遺跡の調査研究

第1節 立会調査の概要	1
1. 調査の実施状況	(光本順) 1
2. 公共下水樹接続工事に伴う立会調査	(光本) 1
3. 津島キャンパス環境整備に伴う立会調査	(光本) 2
第2節 津島岡大遺跡の研究	7
1. 構内遺跡における発掘調査資料の自然科学的分析	(山本悦世) 7

第2章 鹿田遺跡の調査研究

第1節 調査の概要	18
1. 鹿田遺跡第16次調査	(高田貫太) 18
第2節 立会調査の概要	(高田) 22
第3節 鹿田遺跡の研究	25
1. 鹿田遺跡第5次調査出土の井戸枿材に関する再検討－焼印と木材の規格－	(光本) 25

第3章 その他の地区の調査

第1節 試掘・確認調査の概要	37
1. 三朝宿泊所増築および高圧線・電話線切替工事に伴う試掘・確認調査	(野崎貴博) 37

第4章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理	(岩崎志保) 40
1. 調査資料の整理	40
2. 調査資料の分析	40
3. 調査資料の保存処理	41
第2節 調査成果の公開・活用	(岩崎) 42
1. 公開・展示	42
2. 資料・施設等の利活用	43
第3節 2004年度調査研究員の個別研究活動	44
1. 科学研究費採択状況	44
2. 論文・資料報告	44
3. 研究発表等	45
4. 資料収集・実態調査	45

第5章 2004年度における調査・研究のまとめ (岩崎) 46

付 編

岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの規程	47
2. 2004年度岡山大学埋蔵文化財調査研究センター組織	49
3. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項	49

挿 図 目 次

第 1 章

図 1	調査区と土層断面位置	1
図 2	公共下水樹土層断面	1
図 3	調査区と土層断面位置	2
図 4	津島キャンパス環境整備土層断面	3
図 5	2004年度の調査地点【1】—津島地区—	5~6
図 6	津島岡大遺跡第7次調査	10
図 7	津島岡大遺跡第8次調査	10
図 8	津島岡大遺跡第27次調査	10
図 9	津島岡大遺跡第17次調査	11
図 10	津島岡大遺跡第15次調査	12
図 11	津島岡大遺跡第3次調査	12
図 12	津島岡大遺跡第23次調査	12
図 13	津島岡大遺跡における暦年較正年代	14

第 2 章

図 14	第16次調査地点位置図	19
図 15	第16次調査地点土層柱状図	19
図 16	第16次調査地点近世～近代遺構平面図	21
図 17	第16次調査地点土坑 1 断面図	21
図 18	第16次調査地点土坑 2 平・断面図	22
図 19	2004年度の調査地点【2】—鹿田地区—	23
図 20	調査 8 位置図	24
図 21	調査 8 土層柱状図	24

図 22	井戸 6 出土土器	25
図 23	井戸 6 平面図・断面図	25
図 24	縦板①	27
図 25	縦板②	28
図 26	縦板③	29
図 27	縦板④	30
図 28	縦板⑤	31
図 29	横棧・支木	32
図 30	焼印	33
図 31	縦板	34
図 32	縦板詳細①	35
図 33	縦板詳細②	36

第 3 章

図 34	宿泊所増築工事地点位置図	37
図 35	宿泊所増築工事地点土層柱状図	38
図 36	高圧線・電話線切替工事地点位置図	39
図 37	高圧線・電話線切替工事地点土層柱状図	39
図 38	2004年度の調査地点【3】—三朝地区—	39

第 4 章

図 39	津島キャンパス展示会風景	42
図 40	展示会アンケート結果	42
図 41	職場体験〈高松中学校〉	43
図 42	職場体験〈竜操中学校〉	43

表 目 次

表 1	2004年度津島地区調査一覧	4
表 2	試料別年代測定値一覧	8
表 3	自然科学的分析一覧	16
表 4	2004年度鹿田地区調査一覧	23
表 5	2004年度鹿田遺跡周辺調査一覧	24
表 6	接合材の法量	26

表 7	2004年度三朝地区調査一覧	39
表 8	放射性炭素年代測定資料一覧	40
表 9	樹種同定一覧	41
表 10	第 6 期保存処理工程	41
表 11	これまでの保存処理工程	41
表 12	外部委託による保存処理遺物一覧	41

付表・付図

付表 1	1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）	51
付表 2	2003年度以前の構内主要調査（1983～2003年度）	51
付表 3	埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要	58
付表 4	埋蔵文化財調査室刊行物	59
付表 5	埋蔵文化財調査研究センター刊行物	59
付図 1	津島地区全体図	61
付図 2	2003年度までの調査地点【1】－津島地区－	63～64
付図 3	2003年度までの調査地点【2】－鹿田地区－	65
付図 4	2003年度までの調査地点【3】－三朝地区－	66
付図 5	2003年度までの調査地点【4】－東山地区－	66
付図 6	2003年度までの調査地点【5】－倉敷地区－	66

例 言

1. 本紀要は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において2004年4月1日から2005年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果及びセンターの活動についてまとめたものである。
2. 本紀要において報告している津島岡大遺跡は岡山市津島中三丁目1-1、鹿田遺跡は岡山市鹿田町二丁目5-1に、福呂遺跡は、鳥取県東伯郡三朝町大字山田字福呂にそれぞれ所在する。
3. 資料分析にあたっては、岡山大学文学部久野修義教授にご協力・ご助言を頂いた。記して感謝申し上げる。
4. 本文は、岩崎志保・高田貴太・野崎貴博・光本順・山本悦世が分担執筆し、執筆者名は目次および文末に記した。
5. 編集は稲田孝司副センター長の指導の元に岩崎が担当した。

凡 例

1. 大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、平成14年度（2002年）4月1日より施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用し、構内座標を次のように定めている
 - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系（ $X=-144,156.4617\text{m}$ 、 $Y=-37,246.7496\text{m}$ ）を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定する。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と、同南地区に二分する（付図1）。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（ $X=-149,456.3718\text{m}$ 、 $Y=-37,646.7700\text{m}$ ）を起点とし、座標軸を $N-15^{\circ}-E$ に振ったものを基軸とした構内座標を設定する。地区割りは一辺5mの方形を基準としている。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標系の座標北を、他は磁北を用いている。
2. 岡山大学構内の遺跡名は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
3. 調査名称は「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」「立会調査」に分類したものについては、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは「試掘・確認調査」に分類する。
4. 「発掘調査」についての記述は、いずれも現段階での概要報告であり、詳細な正式報告ではない。
5. 表に記載した所属部は、原則として各学部の頭文字を略号として用いている。
6. 付表2に記載した調査一覧については、掘削深度が中世層以下に達した調査を対象とし、その他については除外した。未掲載分も含め、全てのデータは、当センターにおいて管理している。
7. 本文などで使用の調査番号は表と一致する。
8. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市域図を複写したものである。